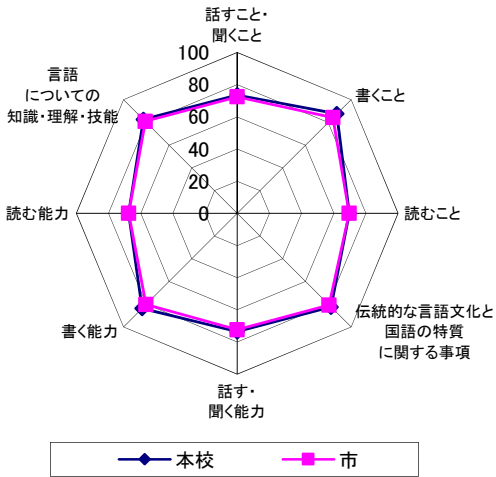


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.6	72.4	70.5
	書くこと	87.6	84.1	70.0
	読むこと	69.6	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.5	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	73.6	72.4	70.5
	書く能力	83.6	80.2	68.0
	読む能力	67.7	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	82.6	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

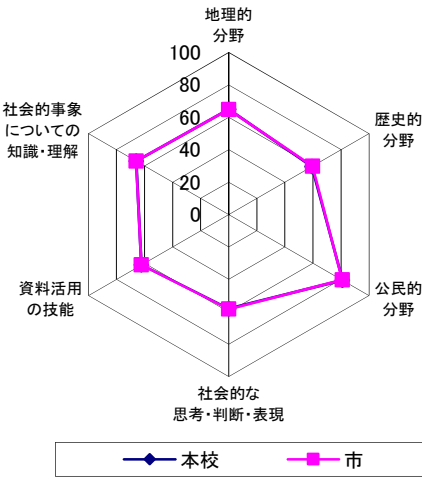
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市平均を1.2ポイント上回った。 ○「相手の考えを尊重しながら、司会者としての役割を果たすことができる」に関する問題の正答率は、市平均を4.7ポイント上回った。 ●「話の展開に注意しながら聞き取ることができる」に関する問題の正答率は、市平均を1.2ポイント下回った。	・話の展開に注意して聞き取ることが課題である。相手の話の論点を理解して、聞き取ることと、話を正確に聞き取った上で、自分の意見を述べていくという活動を増やしていく。また、短作文等を取り入れ、自分の意見を整理する活動を増やしていく。
書くこと	○市平均を3.5ポイント上回った。 ○「自分の考えを明確にして書くことができる」に関する問題の正答率は、市平均を5.1ポイント上回った。 ●「読み取った内容を明確にして書くことができる」に関する問題の正答率は、市平均を1ポイント下回った。	・自分の意見をまとめることが課題である。材料の中から自分の意見がまとめられるよう、題材を工夫した作文の課題を提示して、書く力を伸ばしていく。
読むこと	○市平均を0.1ポイント上回った。 ○文学作品、説明文の読み取りについては、多くの設問で市平均を上回り、特に「登場人物の心情をとらえる」問題の正答率は、市平均を3.1ポイント上回った。 ●説明文の読み取りの中で「文章の構成や展開を捉える」問題の正答率は、市平均を5.1ポイント下回った。	・文章の構成を理解することを課題としている生徒が多いことが分かる。構成を理解することで、段落ごとの役割や内容を捉えて、文章の要旨を捉えることが可能となる。そのため、説明文や論説文などで、段落構成を理解したうえで、要旨をまとめる授業を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市平均を1.7ポイント上回った。 ○文法・語句に関する問題の正答率は、市平均をおおむね上回っている。特に「用言の活用」に関する問題については、市平均を11.1ポイント上回った。 ●小学校で学習した漢字を書く問題の正答率は、市平均をほとんどの設問で下回った。	・文法に関しては、問題演習を繰り返し行い、定着を図っていく。自分の言語生活を見直し、敬語や慣用句などを日常生活で使いこなしていけるように、スピーチなどの活動を積極的に授業等でも取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.0	64.8	54.5
	歴史的分野	59.3	59.7	52.2
	公民的分野	81.1	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.1	58.3	49.5
	資料活用 の技能	62.3	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	65.9	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

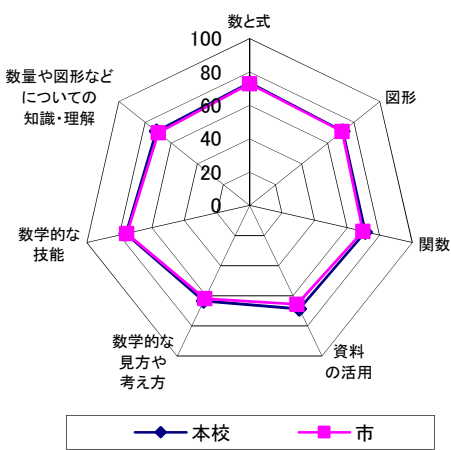
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「日本の諸地域」に関する問題の正答率は市平均をいくつかの設問で大きく上回った。 ●全体的には、市平均とほぼ同じであるが、地球の姿の内容で、市平均より大きく下回る項目が多く見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ワークを用いて、学習習慣を身に付けさせるとともに、基礎的・基本的事項の理解度をさらに向上をさせたい。定期的に以前に学習した内容を復習できるように、小テスト等を行い基礎・基本の確実な定着を図っていく。
歴史的分野	○全体的に市平均と同じで、おおむね理解が図られている。 ●資料の基本的な読み取りはできるが、資料を活用して考える問題の正答率が大きく下回っている設問もある。	・基礎・基本となる知識をさらに身に付けられるように、授業ごとに小テストを実施する。また資料を使って考えたり、説明したりする学習活動を取り入れ、資料活用 の技能が高められるようにする。
公民的分野	○概ね市平均と同じである。 ●今年度は公民的分野の出題が少なかったため、市平均と同じぐらいであったが、前年度の課題となっている日本国憲法に関する内容の理解などについては、改善が図られているとはいえない。	・授業や小单元ごとに小テストを実施し、基本的内容の定着が図られるようにする。複数の資料を用いて、説明や話しをする授業を実施し、表現力を高められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.6	73.0	67.5
	図形	71.5	71.1	59.5
	関数	71.1	69.7	60.0
	資料の活用	68.7	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	63.5	61.8	49.6
	数学的な技能	76.0	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.3	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

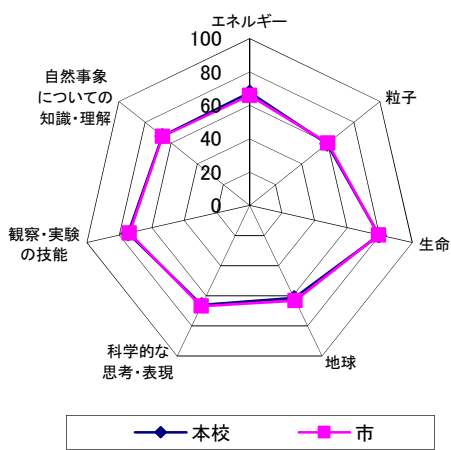
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率が73.6で市平均より0.6ポイント上回っており、数と式の基本的な技能を身に付けている生徒が多いことがわかる。 ●問題ごとにみても、根号のついた数の大小比較や、平方根の考えを使った2次方程式の解き方、連立方程式の文章題は、全国や市の正答率より低く、平方根についての理解が不十分な生徒や、単なる計算ではない問いに答えられない生徒が多いことがわかる。	・平方根については、その意味を十分に理解させ、無理数の特徴を捉えながら、数の一部として自覚させ、有理数と同じように扱えるように指導していく。 ・数と式の領域の学習を、単に計算ができればよいという捉え方をせず、身に付けた計算力を、活用の問題や身の回りの問題解決に利用する学習を多く取り入れる。
図形	○図形を回転移動させた角度についてや、多角形の内角の和の性質に関する問題についてそれぞれ市平均を3.5ポイント、1.9ポイント上回っていることから、角度に関する理解は深まっていると考える。 ●証明の仮定に当たる内容を問題文から読み取ることや正しい三角形の合同条件を選ぶ問題についてはそれぞれ、3.7ポイント、0.9ポイント下回っていることから苦手としている生徒が多いことがわかる。	・図形に苦手意識を持っている生徒が多かったが、3年間かけてかなり内容を理解できた生徒が増えた。対応する角や線分の判断や利用できる三角形の合同条件の判断が苦手な生徒が多いので、対応する頂点がわかるように図形をかかせるなど工夫して問題が解けるように指導していく。
関数	○関数について理解する問題は、市平均を上回っている。また、1次関数の事象をグラフから読み取り、数量を処理する問題は、市平均を上回っている。 ●1組のx、yの値から、関数 $y=a^x$ の式を立式したり、変化の割合を求めたりする問題は、市平均を下回っている。	・関数関係を理解するには、式・グラフ・表を関連させて考えさせることが必要である。授業で繰り返し取り上げて指導することで、定着させたい。 ・関数の中でも2乗に比例する関数についての問題が苦手である。授業で丁寧に課題を扱い指導していく。
資料の活用	○度数分布表から相対度数や平均値を求める式を選ぶことについては、市平均を上回っている。特にヒストグラムの特徴を読み取り、問題の理由を説明することについては市平均を大きく上回っている。 ●樹形図を用いて確率を求める問題では、市平均を1.6ポイント下回っている。	・樹形図や表の意味、利用の仕方についての理解を深めるため、起こりうる場合を順序よく整理するために必要な図は何かを考えさせる学習を多く取り入れながら指導していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.8	66.1	56.4
	粒子	59.4	60.0	57.4
	生命	79.6	79.4	75.2
	地球	61.4	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	66.1	66.8	57.2
	観察・実験の技能	74.7	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	66.8	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

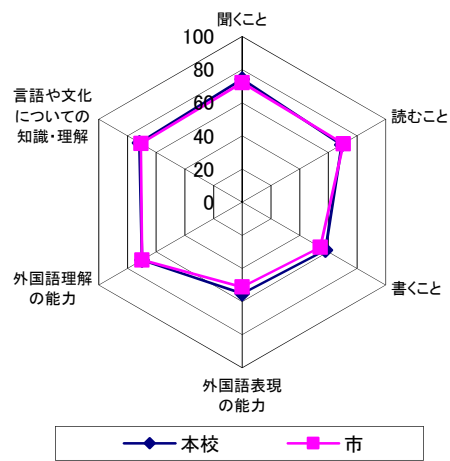
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市平均を1.7ポイント上回っている。 ○テープの長さから、台車の平均の速さを求める実験の技能の設問では、市平均を7.7ポイントと大きく上回っている。 ●誘導電流に関する基本的な知識理解の設問や音の性質に関する設問では、市平均を下回っている。	・エネルギーの内容については、4領域の中で最も市平均を大きく上回った。電流など日常生活と関連する事柄について関心を持たせ、更なる知識理解の定着に努めていく。 ・小単元テストを繰り返し行い、基本的な語句の定着を目指していく。
粒子	●市平均を0.6ポイント下回っている。 ○電離についての知識理解の設問や酸化銅の還元の実験での操作の理由を答える実験の技能の設問では、市平均を上回っている。 ●沸騰に関する知識理解の設問では、市平均を10.3ポイント下回っている。	・粒子の内容については、4領域の中でも最も市平均を下回っており、比較的苦手意識を持っている分野である。知識として理解していても聞かれ方が異なると答えられない様子が見られる。知識と経験が結びつくよう、日常の現象との関連をもたせた授業を展開する。 ・実験では各個人に役割を与え、全員が実験に参加することで実験の技能定着を目指していく。
生命	○市平均を0.2ポイント上回っている。 ○植物のからだのつくりとはたらきに関する知識理解の設問では、5.2ポイントと市平均を大きく上回っている。 ●刺激の伝達に関する観察・実験の技能の設問と生物の生殖に関する知識理解の設問では、市平均を下回っている。	・生命の内容については、人間を含めた動植物について学習をするため、興味・関心を持っている生徒が多くみられる。引き続き日常生活との関連をもたせた授業を展開し、知識の定着と表現力の育成を目指していく。 ・小単元テストを繰り返し行い、基本的な語句の定着を目指していく。
地球	●市平均を1.7ポイント下回っている。 ●地層の重なり方を推測する問題では、市平均を1.1ポイント下回っている。 ○かぎ層を説明する記述問題では、市平均を1.8ポイント上回っている。 ●台風が偏西風によって移動する理由を説明する科学的な思考・表現の問題では、市平均を6.8ポイント下回っている。	・身近な天気予報の内容から発問をすることによって生徒の関心を高め、知識・理解の定着に努めていく。 ・発問に対して小集団で議論させるなどの対話的な活動を通して、科学的な思考・表現の力を高めていく。 ・地層については、映像教材やミニチュアの地層などの視覚的に捉えやすい教材を用い、どの生徒にも分かりやすい授業を展開していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.2	72.2	67.8
	読むこと	69.4	70.5	70.4
	書くこと	58.1	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	55.2	51.2	49.2
	外国語理解の能力	69.9	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	71.6	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市平均と比べ、2ポイント上回った。また、全国と比べ10ポイント近く上回っている項目が4つある。特に対話の内容を理解して、要点を聞き取る問題で、市平均を上回る項目が多かった。 ●要点を聞き取るリスニング問題で、不得意なものもあるようだ。	・ALTや友人との対話活動を積極的に行い、質問されたことに対して適切な返答ができるようにする。 ・聞いた内容について、自分の言葉で要点を伝え合う活動を取り入れる。 ・様々な場面を想定したリスニング教材を活用する。
読むこと	●○市平均と比べ、1.1ポイント下回っているが、語形・語法についての問題は市平均を上回っている。 ●メールの要点等を整理したり、相手の意向に適切に応じたりする問題が苦手である。また、情報量が増えると正答率が下がる。	・さまざまな場面設定や内容の英文を聞き取る練習を多く取り入れる。 ・長文を読む前に、英文の構造を把握したり、内容を推測したりする活動を行う。
書くこと	○市平均と比べ、3.8ポイント上回っている。与えられた情報に基づいて説明文を書いたり、自分の体験に基づいてまとめた内容で説明する文を書いたりすることができた。 ●市平均と比べて、単語の並べかえによる英作文では、1.1ポイント下回っている項目がある。	・条件作文や自由作文の練習をさせる際、より詳しい情報や感想をつけ加えて英文を書く練習を取り入れる。 ・各活動の前に場面に応じた単語や表現を確認する時間を取り入れる。

宇都宮市立横川中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着を図るため、TTや習熟度別学習を取り入れたり、授業中の机間指導での個別指導や、小テストなどによる反復学習を行ったりしている。また、放課後学習相談を設け、生徒の質問に答える時間と場を用意している。本年度は年間22回実施し延べ704人の生徒が利用した。	・「学校の授業がどの程度分かりますか」の本校肯定割合が、1年生92.5、2年生85.1と市肯定割合を上回っているが、3年生は79.8と市肯定割合より2.4ポイント低く、「ほとんどわからない」と回答した割合が2.6であった。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実を図る授業改善	全教科において「見せ合い授業」を全教員が行い、互いに学ぶ機会を設けるとともに、学年や各教科、各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	・「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合が、1・2年生は市肯定割合より5ポイント程度上回っているが、3年生では2～3ポイント下回っている。
家庭学習の充実	学校全体で、自主学習ノートを使用し、自主学習を毎日1ページ以上行うように指導を行っている。	・「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」では、3学年とも6～8ポイント市肯定割合を上回っている。 ・「ふだん学校の授業以外に1日どれくらい学習していますか」では、市のスタンダードダイアリーに示されている各学年の家庭学習時間以上の回答が、1年生57.5、2年生31.9、3年生62.7であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・振り返りを生かした家庭学習の充実を図る。
市のスタンダードダイアリーに示されている各学年の家庭学習時間について、生徒及び保護者に十分周知することにより学習時間の確保に取り組む。その上で、毎時間ごとに各教科で、自分の学びを自覚できる振り返りを行うことにより、不十分な学びを補うための自主学習、あるいは理解できた内容をさらに深めるための自主学習が、家庭学習として取り組めるように指導していく。
- ・言語活動の充実を図る授業の改善に取り組む。
話し合い活動について、コロナウイルス感染症予防のために今後も制限を受けることも考えられるため、自分の考えを書くことによる言語活動に各教科で幅広く取り組んでいく。さらに、考えを書いたものについてICTを利用しながらグループ活動を進めることにつなげる可能性もあると思われる。